



週刊

こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047(752)0453 植田 進 ☎047(487)9754
伊原 忠 ☎047(488)7207

市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>

共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp



第267号

2016年5月16日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

ごみ焼却中心から減量化・資源化に

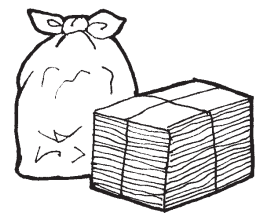
ごみの問題は大量生産・大量消費の社会では放置できない深刻な問題です。近年、燃やせるごみは何でも燃やそうという「焼却中心主義」の流れが強まっています。これでは自治体のごみ処理コストが膨らみ、環境破壊や温暖化の問題も解決しません。ごみの減量化と再利用・資源化の促進が必要です。

ごみの減量化と資源として有効利用をするために「資源化センター」を建設した兵庫県の加古川市を5月10日、文教・安全常任委員会で視察しました。「資源化センター」は47.5キロワットの太陽光発電設備を持った施設で、旧クリーンセンター（廃棄物焼却施設）の解体跡地に廃棄物処理施設を建設すれば交付金を受けられるという制度を利用して建設したものです。

「雑がみ」回収、市民の中に入って啓発活動

加古川市は2022年までにごみの20%減量化を目指しています。可燃ごみの中に「雑がみ（紙類）」が多く混じっていることに注目し、減量化と資源化を促進するために回収することにしました。市は「雑がみ保管袋」を全戸配布し、その袋に家庭内で一時保管し、出すときは不要になった家庭の袋に入れ替えて資源ごみ回収の日に出すそうです。

「雑がみ」は、新聞・雑誌・段ボール・飲料用パック以外のすべての紙類を指します。例えば、台紙、紙製トレイ、筒状のもの、菓子箱、トイレットペーパーの芯、包装紙、紙袋、名刺やメモ用紙などの紙、ティッシュペーパーの箱です。



加古川市の取り組み方は、ごみの減量化のために市内全域で説明会を行い、ごみ集積場に市職員と保健衛生推進委員が協働で紙ごみの分別や水切りを指導するなど市民の中に入って啓発活動をしています。また、市民が処分に困っている剪定枝を堆肥にする取り組みも行っており、「循環型社会」をめざしています。なお加古川市は有料ごみ袋の市民負担はありません。

八千代市のリサイクルセンター具体化を

八千代市は第4次前期基本計画で「リサイクルセンターを整備し、減量化、リサイクルの情報発信基地として活用する」と位置づけています。ところが今年3月に改定された「八千代市一般廃棄物処理基本計画」によるとリサイクルセンターの整備の今後の取り組みとして、「施設の内容や規模等の基本的事項を含め、リサイクルセンターの方向性について再検討」と先延ばしされています。

日本共産党はリサイクルセンター建設の具体化を進め、ごみの減量化と資源化を促進することを求めます。